

愛媛県建設産業担い手確保・ 育成地域連携ネットワーク事業

平成27年度事業 予備調査

一般社団法人愛媛県建設業協会

愛媛県建設産業担い手確保・育成 地域連携ネットワーク会議①

1. 創設 平成27年6月22日

2. 目的

建設産業における新たな課題である担い手の確保・育成について、建設産業団体、行政機関、教育機関、職業訓練機関等の関係者が一体となって取り組む体制を構築するとともに、具体的な事業を実施することにより、建設産業における担い手確保・育成を推進していくことを目的とする。

3. 特記

ネットワーク会議の運営に係る経費は、一般財団法人建設業振興基金が事務局を担う「建設産業担い手確保・育成コンソーシアム」との間で「地域連携ネットワーク構築支援事業業務委託契約」を締結し、その業務委託費等を活用。

愛媛県建設産業担い手確保・育成 地域連携ネットワーク会議②

4. メンバー

- * 1. 行政機関
- * 愛媛労働局 労働基準部監督課長・職業安定部職業対策課長
- * 愛媛県 土木部土木管理局土木管理課長・経済労働部産業雇用局労政雇用課長・労政雇用課雇用対策室長
- * 2. 教育・職業訓練機関
- * 愛媛県教育委員会事務局指導部高校教育課長
- * ○愛媛県工業教育研究会会長(愛媛県立松山工業高等学校長)
- * 松山高等技術専門学校校長
- * 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構愛媛支部愛媛職業能力開発促進センター所長
- * 愛媛県若年者就職支援センター長
- * 3. 建設関係団体
- * ○一般社団法人愛媛県建設業協会会長・副会長
- * ◎一般社団法人愛媛県建設業協会副会長(愛媛県建設産業団体連合会会長)
- * 一般社団法人愛媛県電設業協会会長・一般社団法人愛媛県空調衛生設備業協会会長・
- * 一般社団法人愛媛県測量設計業協会会長・愛媛県鉄筋業協同組合理事長
- * 一般社団法人日本塗装工業会愛媛県支部長・愛媛県左官業組合連合会会長 ※◎-委員長 ○-副委員長
- * 行政機関5名、教育・職業訓練機関5名、建設関係団体8名 合計18名

愛媛県建設産業担い手確保・育成 地域連携ネットワーク事業①

1. 予備調査
2. 期間平成27年9月～平成28年2月
3. 事業予算 委託費¥1,500,000
4. 事業概要

(1) 目的

愛媛県内における建設産業のイメージアップや入職喚起につながる戦略的事業等を実施する指針とするための基礎調査等を実施し、将来にわたる建設産業の担い手確保・育成に資するもの。

愛媛県建設産業担い手確保・育成 地域連携ネットワーク事業②

(2) 調査の背景・必要性

- ① 近年、建設業の人材不足が課題として顕在化しており、国等においても各種対策を実施しているが、県内における人材不足の詳細な実情(職種や年齢層など)の基礎的なデータはない。
- ② このため、建設産業の担い手に関して、需要側・供給側それぞれの現状やニーズを詳細に把握するとともに、
 - ・教育・訓練機関の効果的な活用方策
 - ・効果的な広報戦略等に関して、関係機関とも連携して調査研究等を行うことにより、県内の実情に応じた効果的な担い手確保・育成事業を展開していく必要がある。

愛媛県建設産業担い手確保・育成 地域連携ネットワーク事業③

(3) 調査項目等

- ① 県内における建設産業の担い手に係る詳細な需給ニーズの実態調査
 - ・調査対象：(需要側)建設業関係団体
(供給側)教育・訓練機関の生徒、保護者等
 - ・調査内容：(需要側)職種毎の不足状況、資格要件、年齢層、育成方法等
(供給側)建設産業への入職要望の有無・理由、希望職種等
- ② 県内における教育・職業訓練機関の効果的な活用方策の検討、先進事例調査
 - ・調査対象：教育・訓練機関及びその生徒、保護者等
 - ・調査内容：カリキュラム内容、教育訓練機関の連携方策、他産業での成功事例等
- ③ 建設産業担い手確保のための効果的な広報戦略の検討
 - ・調査対象：建設業関係団体、教育・訓練機関
 - ・調査内容：需要側・供給側が連携した効果的な広報戦略手法等

予備調査結果①

1. 調査対象

ア 需要側(建設業者、建設コンサルタント等)

- ・県建設産業担い手確保・育成地域連携ネットワーク会議構成員の会員業者【842社】
愛媛県建設業協会(542) 愛媛県電設業協会(87) 愛媛県空調衛生設備業協会 (44)
愛媛県測量設計業協会 (31) 愛媛県鉄筋業協同組合(19) 日本塗装工業会愛媛県支部(64)
愛媛県左官業組合連合会(55)

イ 供給側(工業系高校、職業訓練校等の生徒)

- ・県内の土木系学科を有する県立高校の生徒【740名】
西条農業高 環境工学科(104) 東予高 建設工学科 (66) 松山工業高 建築科(120)
松山工業高 土木科(119) 伊予農業高 環境開発科(112)
八幡浜工高 機械土木工学科(104) 吉田高 機械建築工学科(115)
- ・松山高等技術専門学校(15) 愛媛職業能力開発促進センターの生徒(62)【77名】

予備調査結果②

2. 調査実施日 平成27年11月～12月
3. 調査方法 郵送配布・郵送回収
4. 回答数
 - ア 需要側(建設業者、建設コンサルタント等)
445／842、回収率52.9%
 - イ 供給側(工業系高校、職業訓練校等の生徒)
689／740、回収率93.1%

予備調査結果③

5. 調査結果

(1) 建設業者、建設コンサルタント等

アンケート回収状況

団体名	配付先数	回収先数	回収率 (%)
愛媛県建設業協会	542	315	58.1
愛媛県電設業協会	87	44	50.6
愛媛県空調衛生設備業協会	44	19	43.2
愛媛県測量設計業協会	31	21	67.7
愛媛県鉄筋業組合	19	4	21.1
日本塗装工業会愛媛県支部	64	22	34.4
愛媛県左官業組合連合会	55	19	34.5
不明	-	1	-
全体	842	445	52.9

予備調査結果④

【具体的内容・結果】

※別添資料の通り。

予備調査結果⑤

担い手確保・育成に関する結論概要

【需要者（企業）側】

①不足感（約8割不足感あり）

技術者、技能者（特に型枠工・鉄筋工・左官）

②求める人材

資格や実績をもつ技術者・技能者も多いが、30歳未満の建設業経験者が最も多い。

予備調査結果⑥

③人材確保の重要性

最も重要視しているのは、圧倒的に給与・賃金。

④需要者（企業）側の人材確保・育成の取り組み

資格取得支援、資格取得者への賃金アップ、業界団体が行う講習会への参加など。

一方で、育成にかかる時間・人材・費用がないという意見も多くあった。

予備調査結果⑦

⑤需要者（企業）側が行政・団体・教育機関等に望む取り組み

- ・資格取得支援のための講座充実とそれに対する助成
- ・若年労働者の技能取得職業訓練の実施
- ・イメージアップのための広報活動
等の意見が多数を占めた。

予備調査結果⑧

【供給者（生徒）側】

①建設業のイメージ

高校生は90%を「良い」と感じているが、職業訓練生では、その割合が60%まで減少。

※技術者、技能者（特に型枠工・鉄筋工・左官）

②「良い」と回答した理由

「やりがいがありそう」、「社会や人の役に立てそう」が多くを占める。

予備調査結果⑨

③「悪い」と回答した理由

「仕事がきつそう・危険そう」、「給与・賃金が安そう」、「休みがとりにくそう」がほぼ同じ割合で上位を占める。

④就職希望

県内の建設業関係に就職したいと考えている割合が多いが、就職先決定に関し重要視している点は、「給与・賃金」、「休日・労働時間」等の待遇が上位を占める一方、「仕事のやりがい」もその次に続く。

予備調査結果⑩

⑤供給者（生徒）側が行政・団体・教育機関等に望む取り組み

- ・工事現場見学会、インターンシップなど従前から実施している事業のほか
 - ・イメージアップのための広報活動
 - ・就職に関する講演会・説明会の開催
 - ・技術・技能取得への体系づくり
- 等の意見が上位を占めた。

予備調査の結果を踏まえて

【予備調査の結果を踏まえての考察】

- ①需要者(企業)側、供給者(生徒)側のアンケート結果を踏まえて、平成28年度・29年度の振興基金が取り組む実施事業へ移行。
- ②実施事業(委託資金)終了後も、業界として引き続き実施できる事業を模索。
- ③制度設計や事業等では如何ともし難い、給与・賃金の礎である公共事業予算の拡大確保を、引き続き、強力に関係要路に要望する必要がある。

その他担い手確保・育成の新規事業

平成27年9月5日
愛媛新聞14面

- 8月19日～21日
県下3か所
中学生とその保護者等対象
- ・重機体験
 - ・工事現場見学会

他：えひめCATVでも放送

建設共済会 愛媛県建設業協会 [9/5掲載]_1a版[161x380mm]_4c

安全+第一 愛媛県建設業協会担い手確保推進事業

【建設共済会等単体】(株)建設共済会 (株)建設共済会 (株)建設共済会 (株)建設共済会 (株)建設共済会

分かったよ 建設の仕事

現場見学、楽しかった

重機体験

工事現場見学会

愛媛県建設業協会は、公共事業に携わる者の使命として地域社会に還元すべく、さまざまな地域貢献活動に取り組んでおります。

災害復旧支援ボランティア

平成16年9月14日に愛媛県と「大規模災害時における緊急対応業務に関する協定」を締結しました。県内で発生した地震・台風等の災害の復旧支援活動を行っています。

法定外別当補償制度
建設共済保険

専任弁護士 国土交通省認可

- 補償額による自主的な共済保障で保険料が安い。
- 事業主(保険契約者)への返り金が大きい。
- 企業・下請問わず無記名で補償。
- 経費事項書面において15日の補償。
- 元請・下請それぞれの保険契約者へ重複支払い。

建設共済会

公益財団法人 建設業共済会

〒108-0001 東京都港区虎ノ門1-22-15 虎ノ門ビル

一般社団法人 愛媛県建設業協会 〒790-0002 松山市三幸町4丁目4番地4 TEL 099(943)5324 http://www.jimakyokyo.or.jp/

おわりに

今回、予備調査事業の委託を受け、愛媛県の建設産業における人材確保・育成の傾向をつかむことができ、今後の事業化へ資することができた。

委託(採択)頂いた「一般財団法人建設業振興金」に感謝するとともに、実質的に調査を実施頂いた「いよぎん地域経済研究センター」、愛媛県・愛媛労働局・関係高校・専門校・関係団体の多大なるご協力に厚く御礼申し上げます。

アンケート調査結果

1 調査概要

(1) 目的

愛媛県内における建設産業の効果的な担い手確保・育成施策の検討にあたって、建設業者等の需要側、工業系高校、職業訓練校の生徒等の供給側それぞれの現状やニーズを把握することを目的とする。

(2) 調査対象

ア 需要側（建設業者、建設コンサルタント等）

・県建設産業担い手確保・育成地域連携ネットワーク会議構成員の会員業者【842社】

愛媛県建設業協会 (542)	愛媛県電設業協会(87)	愛媛県空調衛生設備業協会(44)
愛媛県測量設計業協会 (31)	愛媛県鉄筋業組合(19)	日本塗装工業会愛媛県支部(64)
愛媛県左官業組合連合会(55)		

イ 供給側（工業系高校、職業訓練校等の生徒）

・県内の土木系学科を有する県立高校の生徒【644名】

西条農業高 環境工学科(104)	東予高 建設工学科 (66)	松山工業高 建築科 (120)
松山工業高 土木科 (119)	伊予農業高 環境開発科(112)	八幡浜工高 機械土木工学科(104)
吉田高 機械建築工学科(19)		

・松山高等技術専門学校(15)、愛媛職業能力開発促進センターの生徒(62)【77名】

(3) 調査実施日

平成27年11月～12月

(4) 調査方法

郵送配布・郵送回収

(5) 回答数

ア 需要側（建設業者、建設コンサルタント等）

445/842、回収率52.9%

イ 供給側（工業系高校、職業訓練校等の生徒）

689/721、回収率95.6%

※吉田高校：機械建築工学科の学生のうち、建築コース生のみ実施の旨連絡あり

2 調査結果

(1) 建設業者、建設コンサルタント等

アンケート回収状況(2015年12月22日現在)

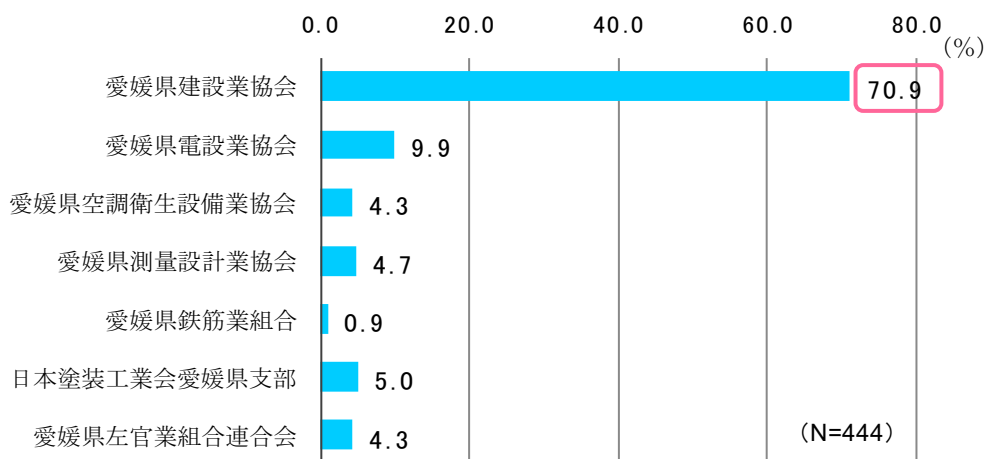
団体名	配付先数	回収先数	回収率 (%)
愛媛県建設業協会	542	315	58.1
愛媛県電設業協会	87	44	50.6
愛媛県空調衛生設備業協会	44	19	43.2
愛媛県測量設計業協会	31	21	67.7
愛媛県鉄筋業組合	19	4	21.1
日本塗装工業会愛媛県支部	64	22	34.4
愛媛県左官業組合連合会	55	19	34.5
不明	-	1	-
全体	842	445	52.9

※「不明」は問1-1、1-2ともに回答なし

1 事業所概要について

問1-1 所属する団体名(該当する番号1つに○をつけてください。)

○アンケート回答者の所属する団体は以下のとおり。配付対象先の最も多かった「愛媛県建設業協会」(70.9%)が7割を占める。



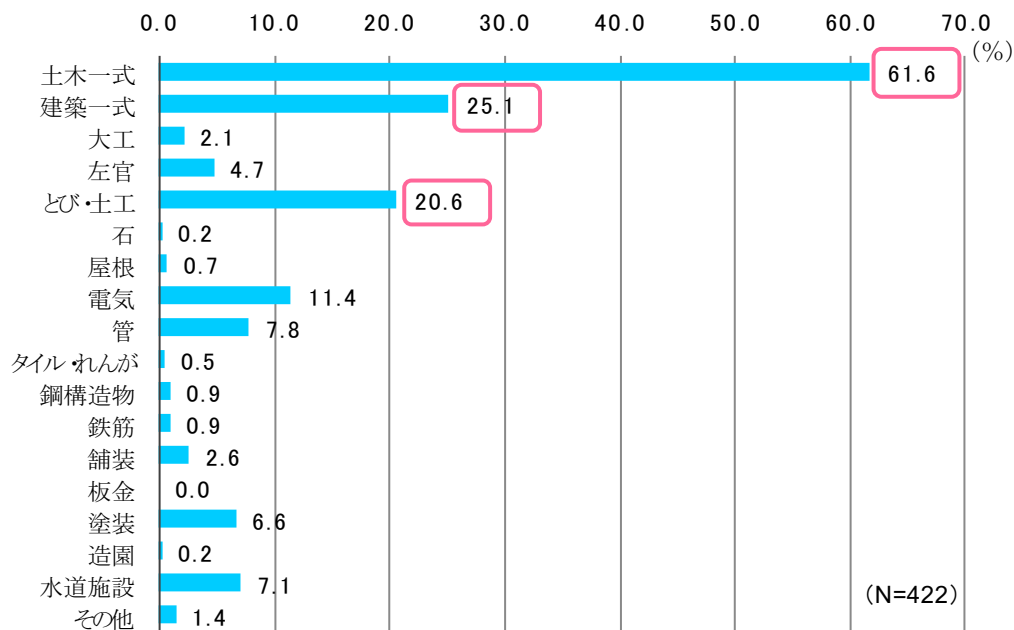
問1-2 事業所名(ご記入ください)

—

問1-3 建設業者の方へお聞きします。主たる建設業種を教えてください。(主な業種2つ以内に○をつけてください。)

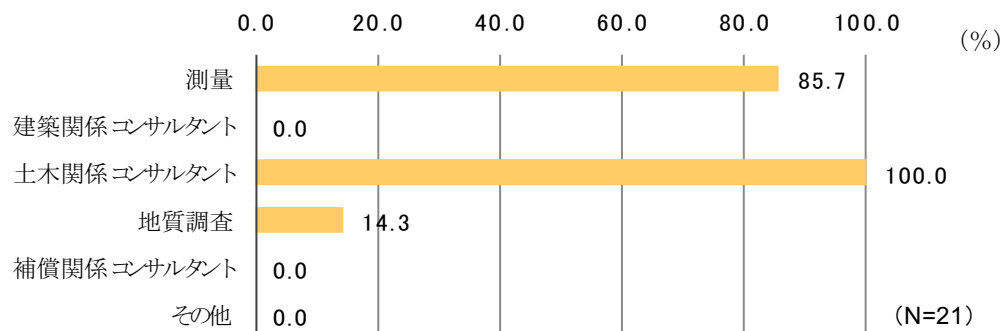
○アンケート回答者は、建設業者は422社(95.3%)、建設業者以外は21社(4.7%)であり、ほとんどが建設業者。

○建設業者の主たる業種は、「土木一式」(61.6%)が最も多く、次いで「建築一式」(25.1%)、「とび・土工」(20.6%)となった。



問1-4 建設業者以外(測量、建設コンサル等)の方へお聞きします。主たる業種を教えてください。(主な業種2つ以内に○をつけてください。)

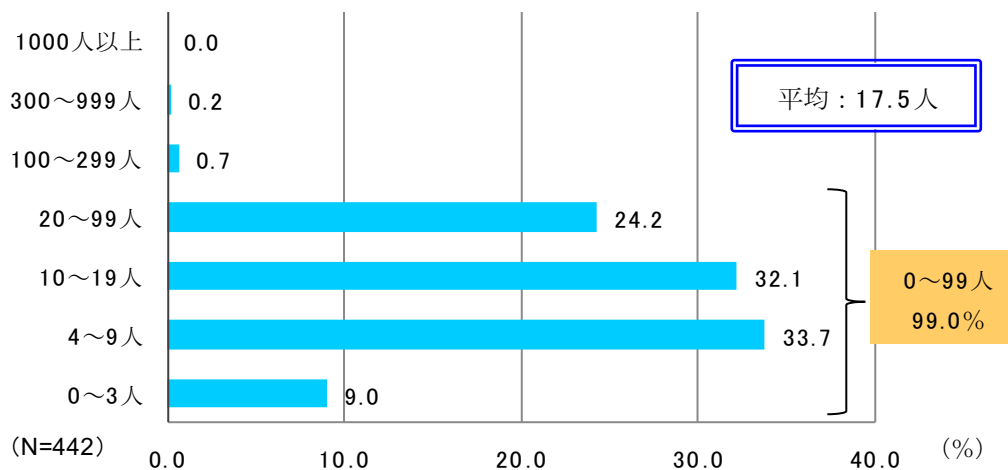
○建設業者以外では、「土木関係コンサルタント」(100.0%)、「測量」(85.7%)が多かった。



問2 現在の社員数を教えてください。

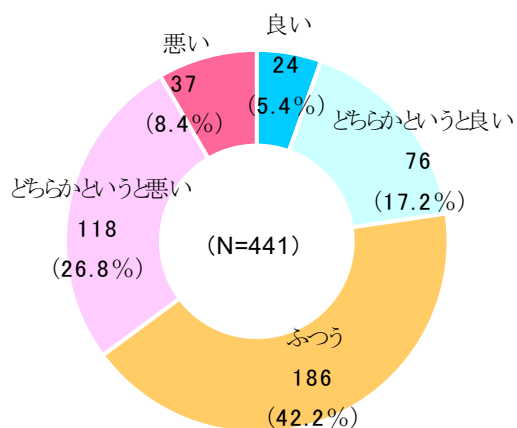
○社員数の平均は17.5人。社員数を規模別にみると、「4～9人」(33.7%)が最も多く、次いで「10～19人」(32.1%)、「20～99人」(24.2%)となった。

○100人未満(0～99人)が99.0%を占めた。



問3 現在の経営状況を教えてください。(該当する番号1つに○をつけてください。)

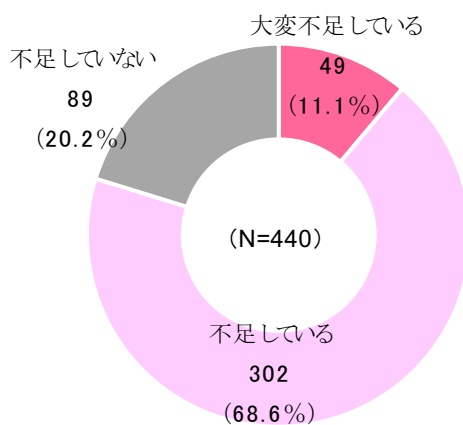
○「良い」と「どちらかというが良い」の合計は22.6%、「悪い」と「どちらかというが悪い」の合計は35.2%となった。



2 技術者・技能者の過不足状況等について

問4 現在、貴社において技術者または技能者が不足していますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

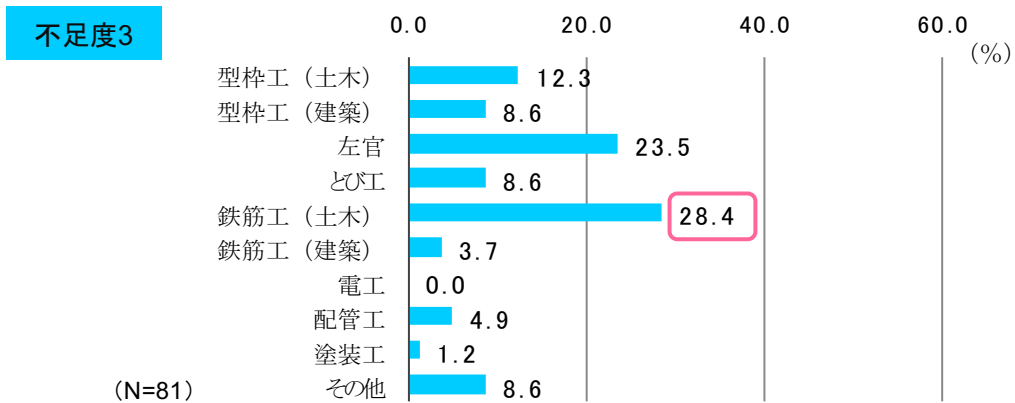
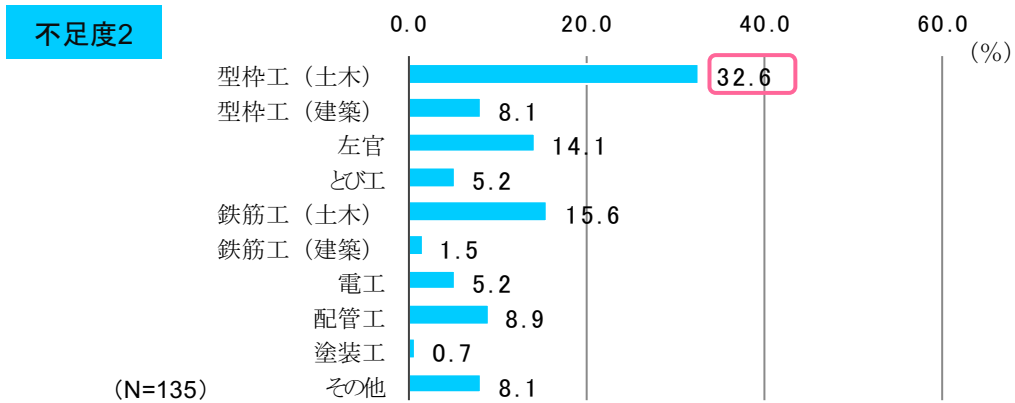
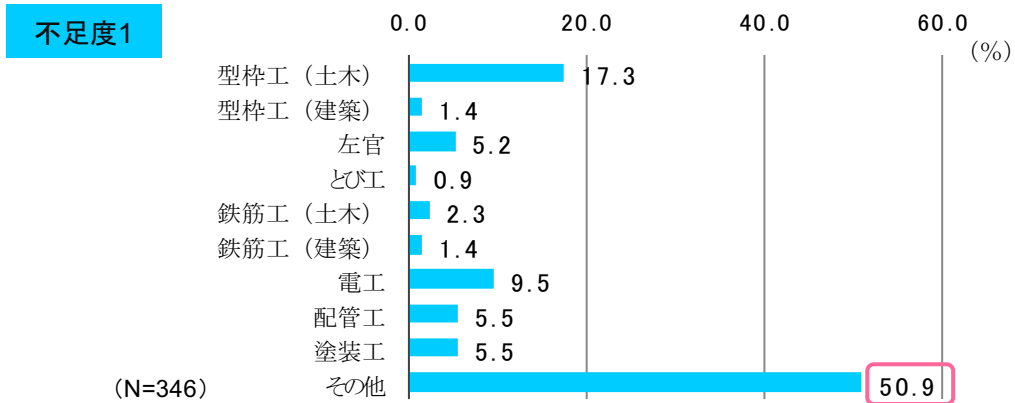
○「大変不足している」は11.1%、「不足している」は68.6%となり、約8割の企業が技術者や技能者が不足していると回答した。

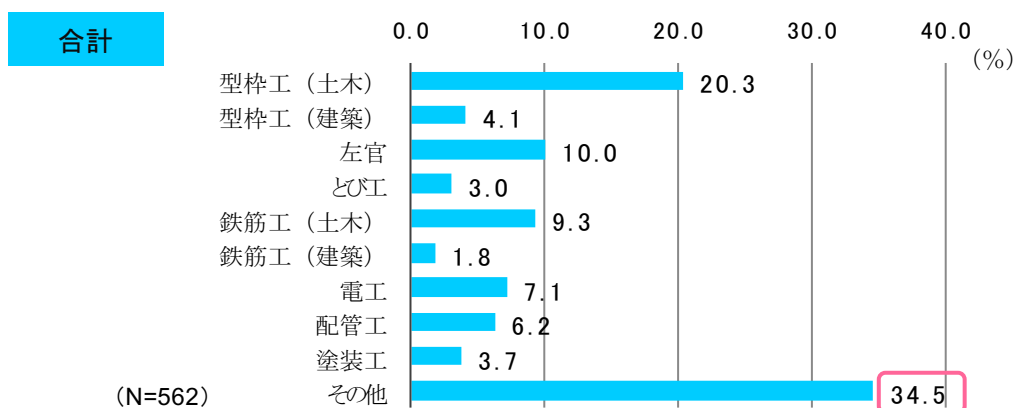


問5 貴社において不足している技術者または技能者の職種をお聞かせください。(不足度の高い順に3つ以内を選択。)

○不足度1では、「その他」(50.9%)が最も多く、具体的な職種として土木施工管理技士が多かった(詳細は次ページ)。

○不足度2や3では、「型枠工(土木)」や「鉄筋工(土木)」など土木系の職種で人手が不足している。



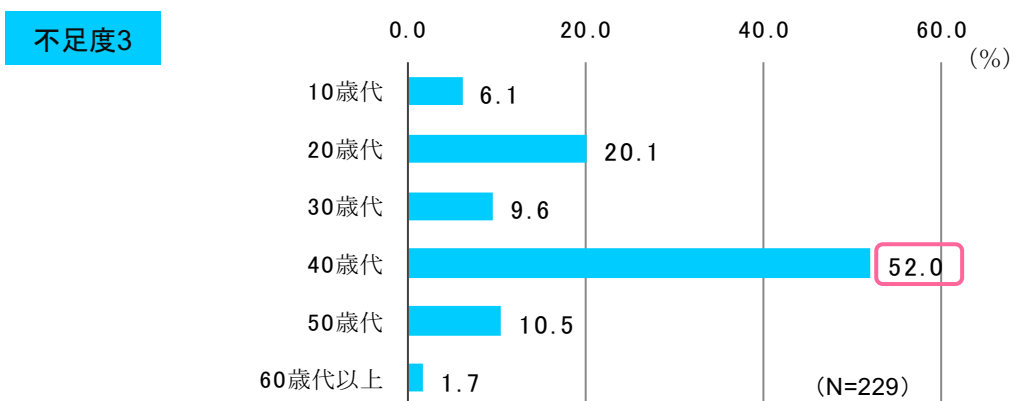
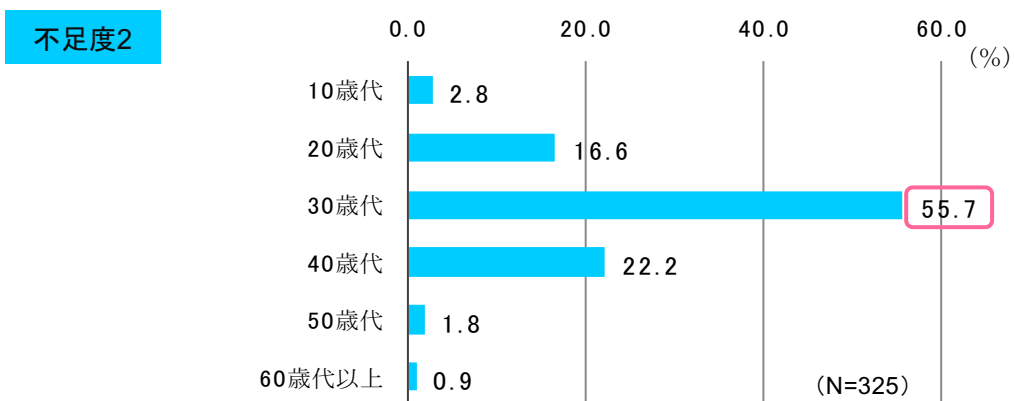
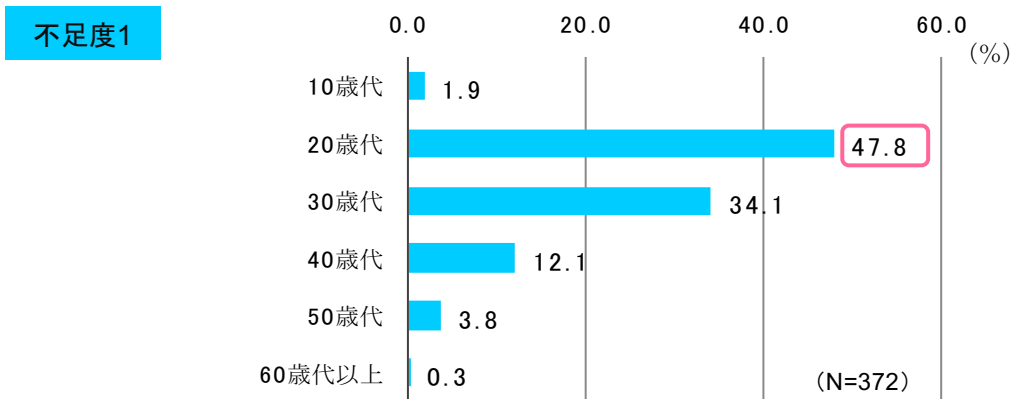


○問5、不足度1～3における「その他」の具体的記述は以下のとおり

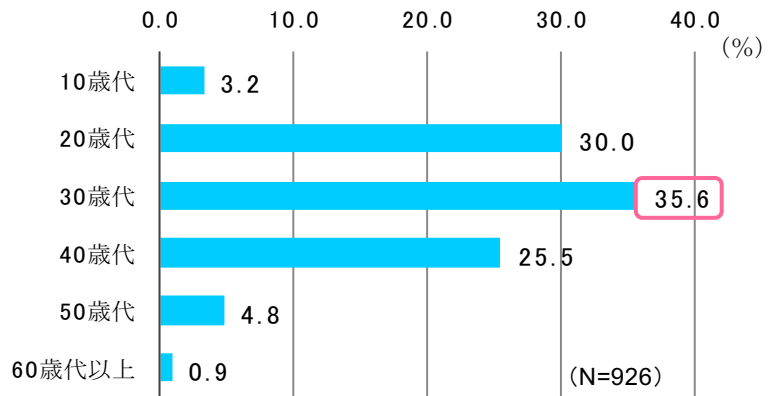
具体的職種	記述数
土木施工管理技士	115
建築施工管理技士	30
測量士	14
重機オペレーター	7
その他	
技術士、普通作業員、大工、技術者、管工事施工管理技士、建築士、 RCCM、舗装工、電気施工管理技士、補償業務管理士、 機械施工管理技士、土質調査技士、石工、屋根工事、営業、 コンクリート診断士 など	21

問6 貴社において不足している技術者または技能者の年齢をお聞かせください。(不足度の高い順に3つ以内を選択。)

○不足度1では「20歳代」(47.8%)、不足度2では「30歳代」(55.7%)、不足度3では「40歳代」(52.0%)が最も多かった。若年層だけでなく、一定の経験を積んだ中堅層についても技術者・技能者が不足しているようだ。



合計

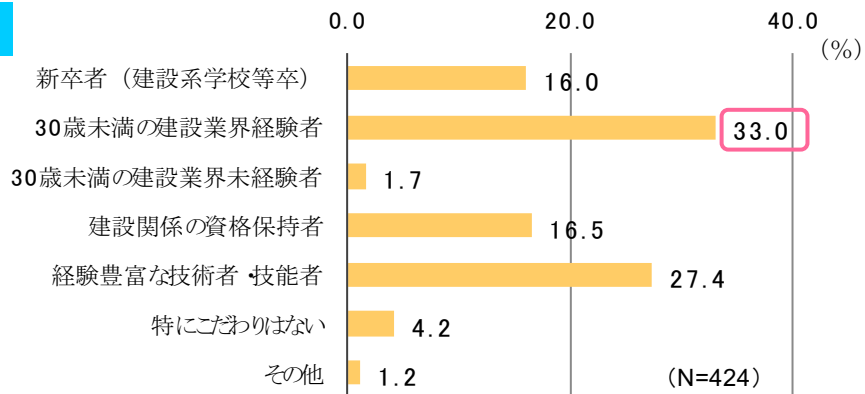


問7 技術者または技能者の雇用にあたって、優先して雇用したい人材についてお聞かせください。(優先度の高い順に3つ以内を選択。)

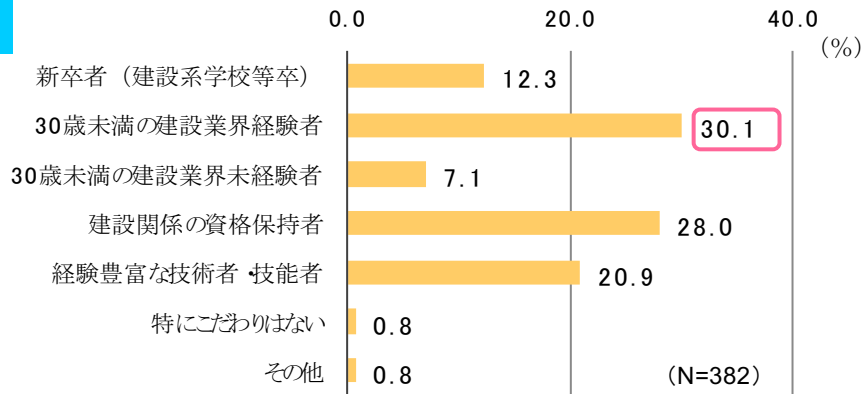
○優先度1～3において、「30歳未満の建設業界経験者」が最も多かった。また、「経験豊富な技術者・技能者」や「建設関係の資格保持者」なども優先度が高かった。

○一方、「30歳未満の建設業界未経験者」の優先度は低かった。

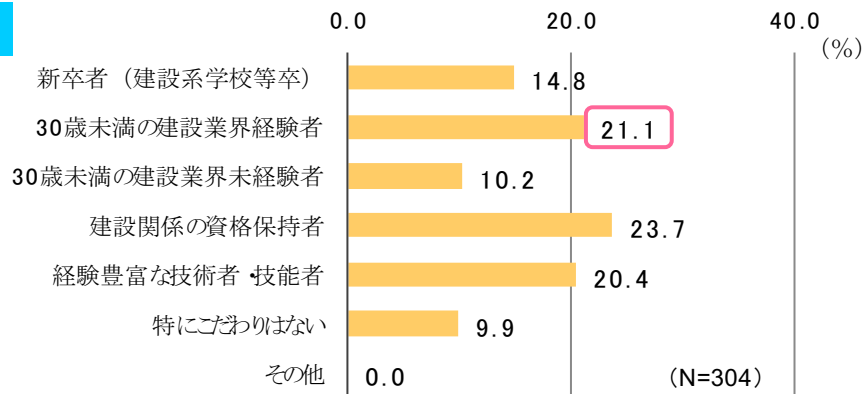
優先度1



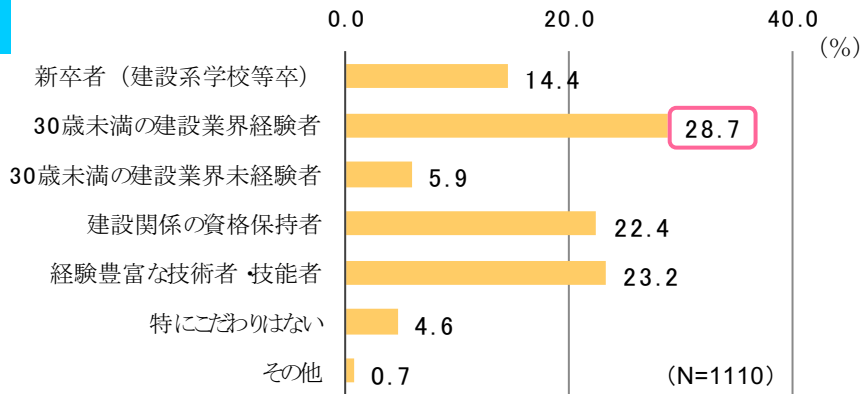
優先度2



優先度3

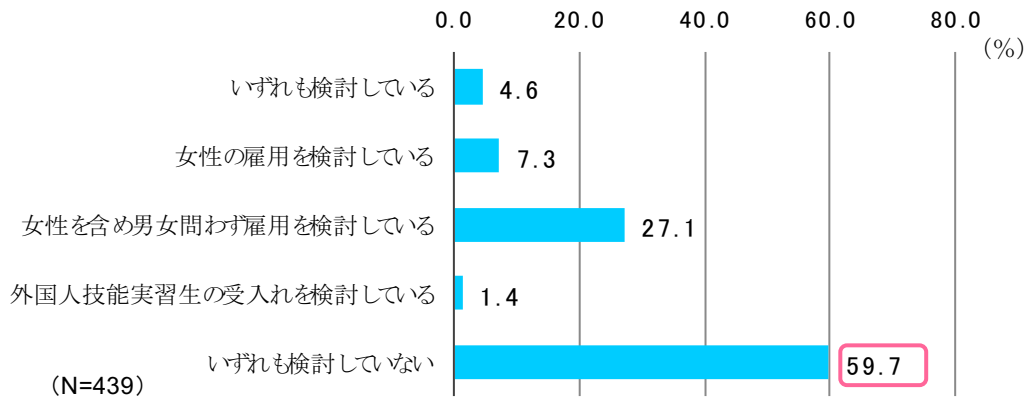


合計



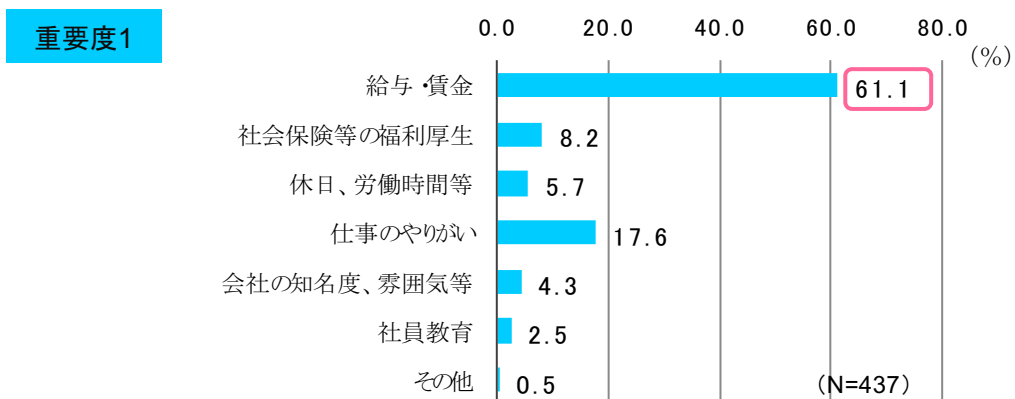
問8 女性の雇用または外国人技能実習生の受入れを検討していますか。(該当する番号1つに○をつけてください。)

○「いずれも検討していない」(59.7%)が最も多かった。女性および外国人技能実習生の受入れを「いずれも検討している」(4.6%)はわずかであった。

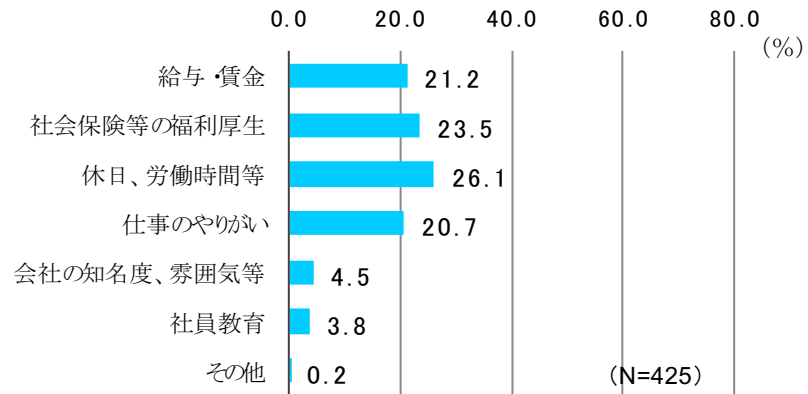


問9 必要な人材を確保するため、重要と考えていることをお聞かせください。(重要度の高い順に3つ以内を選択)

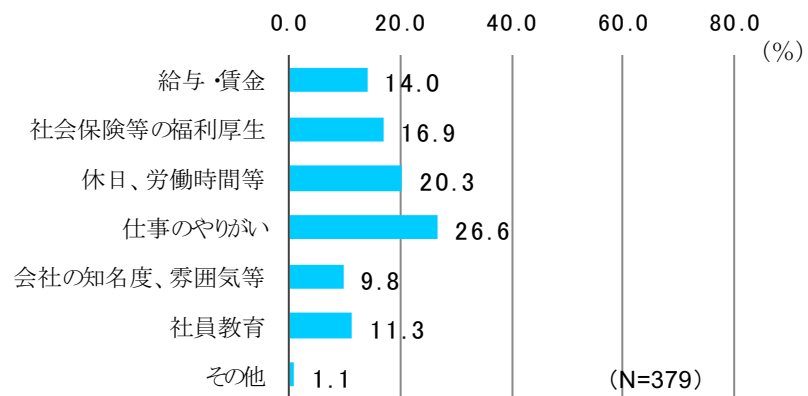
○「給与・賃金」が最も重要だと考えている企業が最も多かった(61.1%)。工業系高校および職業訓練校の生徒で行ったアンケートでも同様の結果であった〔就職先を決める場合に重要な事項〕。



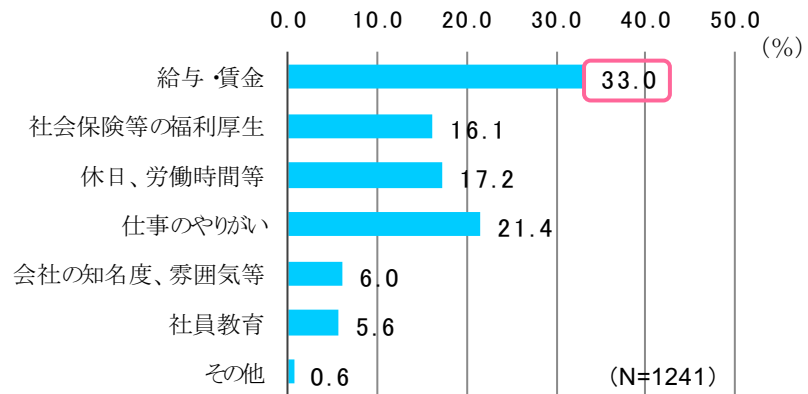
重要度2



重要度3

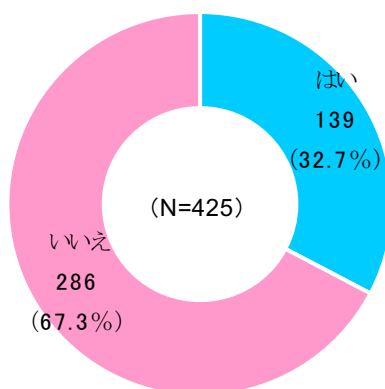


合計



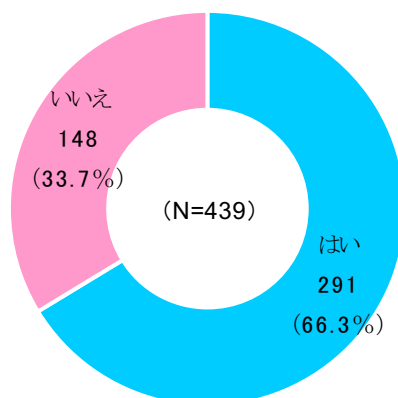
問10 問9で選択した内容について、具体的な取組を行っていますか。（「はい」を選択した場合は、取組内容を記入してください。）

○具体的な取組を行っているとは回答した企業は32.7%であった。



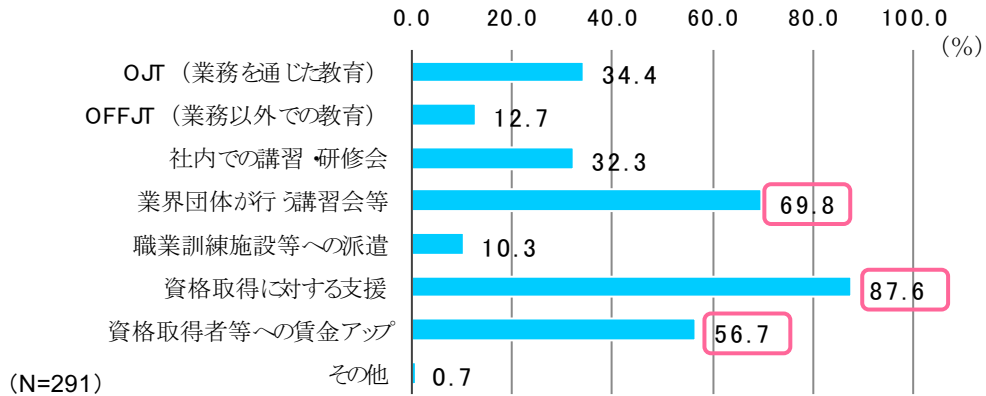
問11 人材を育成するための取組を行っていますか。

○人材を育成するための取組を行っているとは答えた企業は66.3%であった。



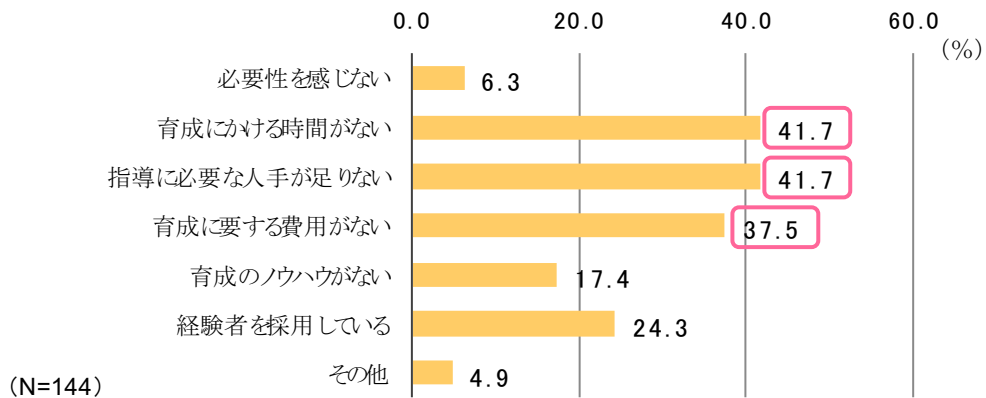
問11-1 問11で「はい」を選択した方にお伺いします。人材を育成するために行っている取組についてお聞かせください。(該当するものすべてに○をつけてください。)

○ 人材を育成するために行っている具体的な取組としては、「資格取得に対する支援」(87.6%)が最も多く、次いで、「業界団体が行う講習会等」(69.8%)、「資格取得者等への賃金アップ」(56.7%)となった。

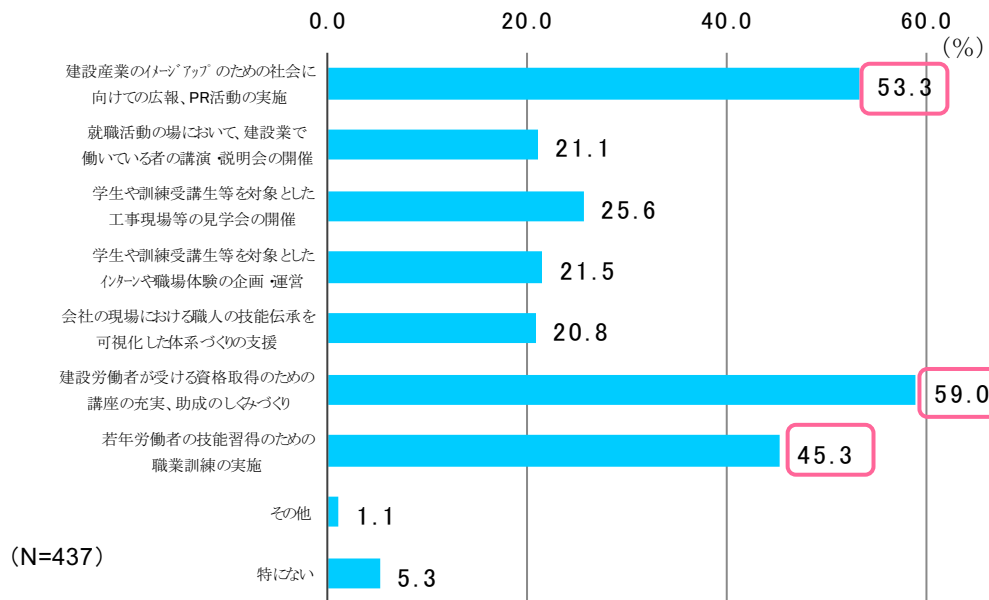


問11-2 問11で「いいえ」を選択した方にお伺いします。人材を育成するための取組を行っていない理由についてお聞かせください。(該当するものすべてに○をつけてください。)

○人材を育成するための取組を行っていない理由は、「育成にかかる時間がない」(41.7%)、「指導に必要な人手が足りない」(41.7%)、「育成に要する費用がない」(37.5%)などが多かった。



問12 県内の建設関係団体、教育・職業訓練機関、行政機関等の関係機関が連携して、建設産業の担い手確保・育成のための事業を実施することにしてはいますが、この活動に期待する役割をお聞かせください。(該当するものすべてに○をつけてください。)

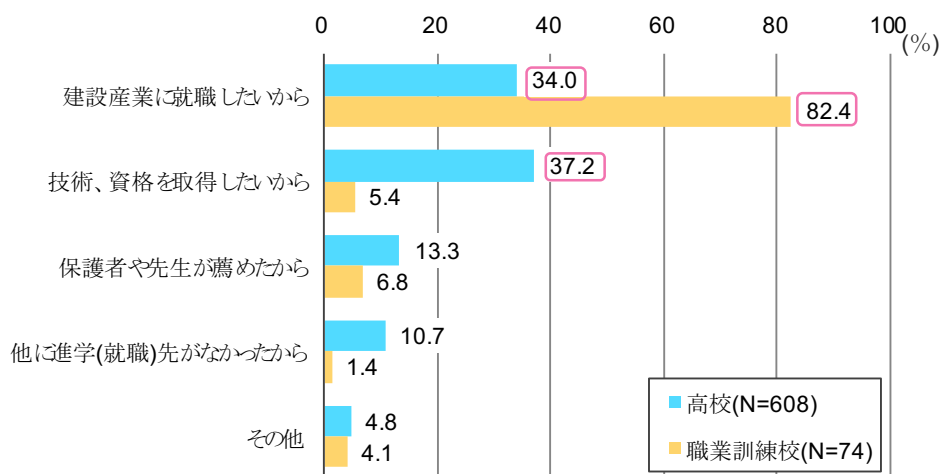


(2) 工業系高校、職業訓練校等の生徒

1 入学、入校理由について

問1 現在の高校（学校）に進学（又は講座を受講）した最大の理由をお聞かせください。（該当する番号1つに○をつけてください）

○高校生では「技術、資格を取得したいから」(37.2%)や「建設産業に就職したいから」(34.0%)が多いが、職業訓練校生では「建設産業に就職したいから」(82.4%)が最も多い



【その他回答〈高校〉】

- ・部活
- ・家が近かったから
- ・この高校に入学したかったから
- ・自分の勉強のレベルで受かりそうな気がしたから
- ・就職したいから
- ・自分に一番合うと思ったから
- ・先生に薦められたから

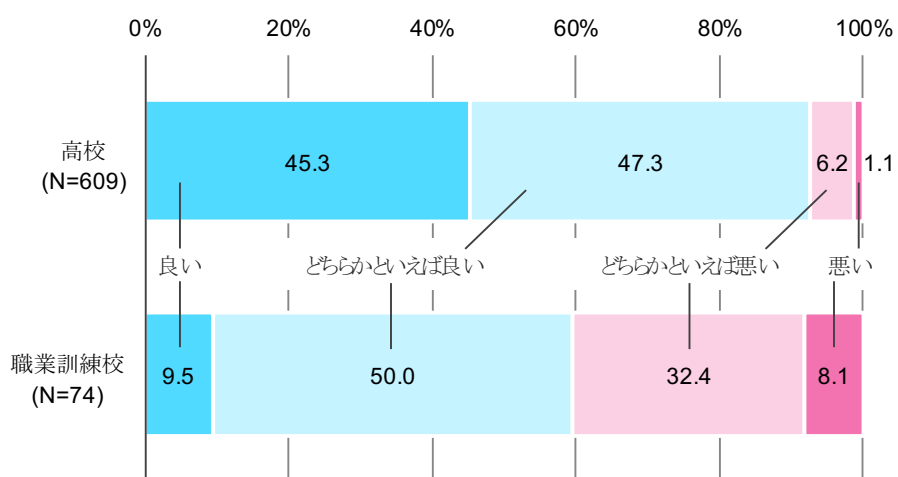
【その他回答〈職業訓練校〉】

- ・自分に合った仕事をゆっくり探したかったから
- ・どのようなことをするのか知りたかったから
- ・再就職のため

2 建設産業に対するイメージについて

問2 建設産業に対するイメージをお聞かせください。（該当する番号1つに○をつけてください）

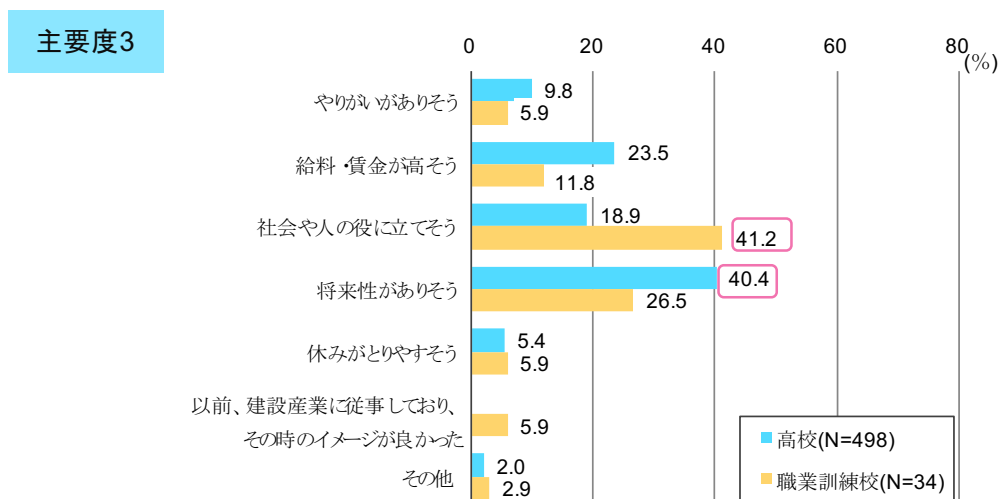
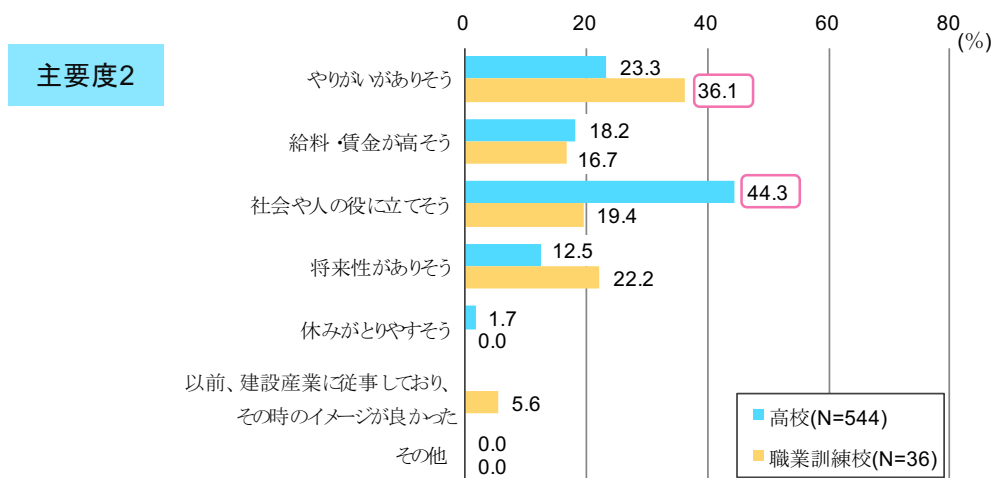
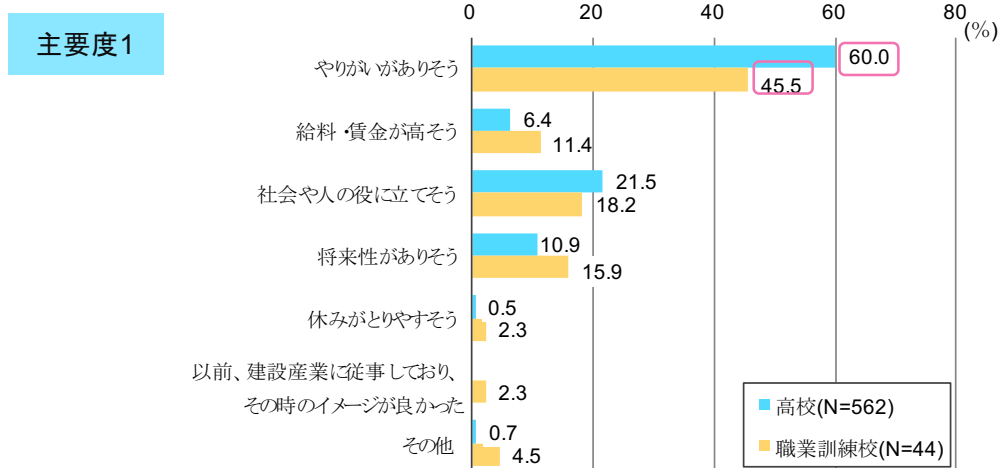
○高校生は建設産業に対して良いイメージ（「良い」「どちらかといえば良い」）を持つ生徒が9割以上を占めるが(92.6%)、職業訓練校生では良いイメージを持つ生徒が6割程度(59.5%)である

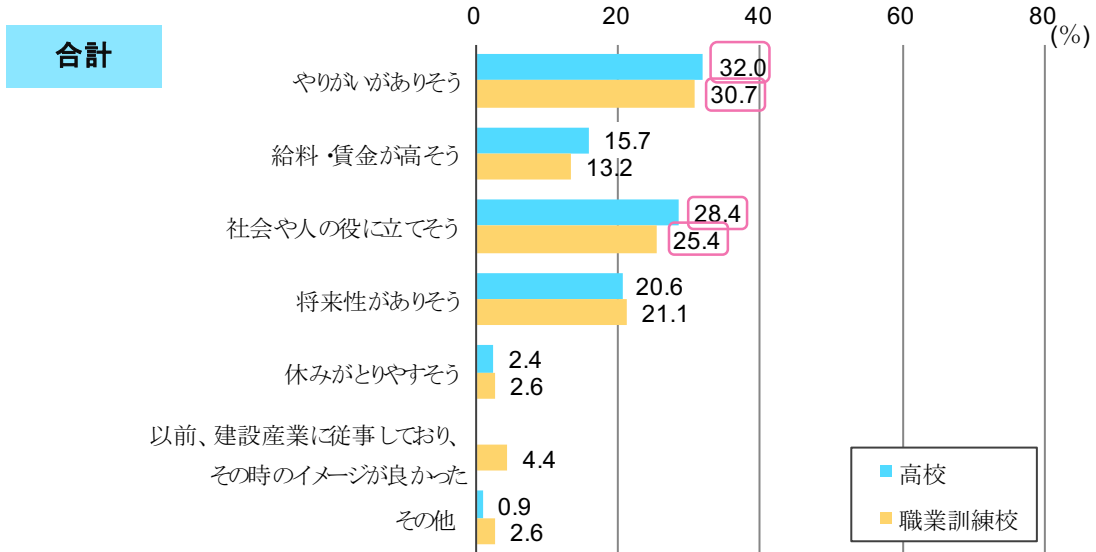


問2-1 問2で「1. 良い」、「2. どちらかというが良い」を選択した方にお伺いします。そう考えた理由をお聞かせください。（選択肢の中から主要な理由を3つ以内で選択し、その数字を回答欄に記入してください）

○高校生、職業訓練校生ともに「やりがいがありそう」(60.0%、45.5%)な点が良いイメージの理由となっている。

○高校生では、「社会や人の役に立てそう」な点も良いイメージの理由の一つとなっている。





【その他回答〈高校〉】

- ・自分の能力が活かせるから
- ・ものづくりができる
- ・ロマンがある
- ・好きだから
- ・なんとなく
- ・仕事が多そう
- ・親の背中に憧れた
- ・自分の専門分野だから
- ・上下関係がしっかりしてそう
- ・体を動かしながら仕事をしたい

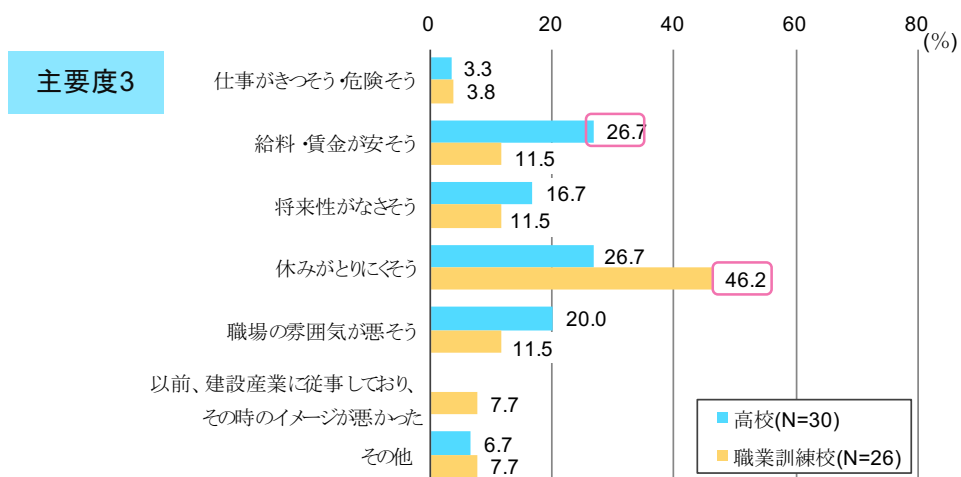
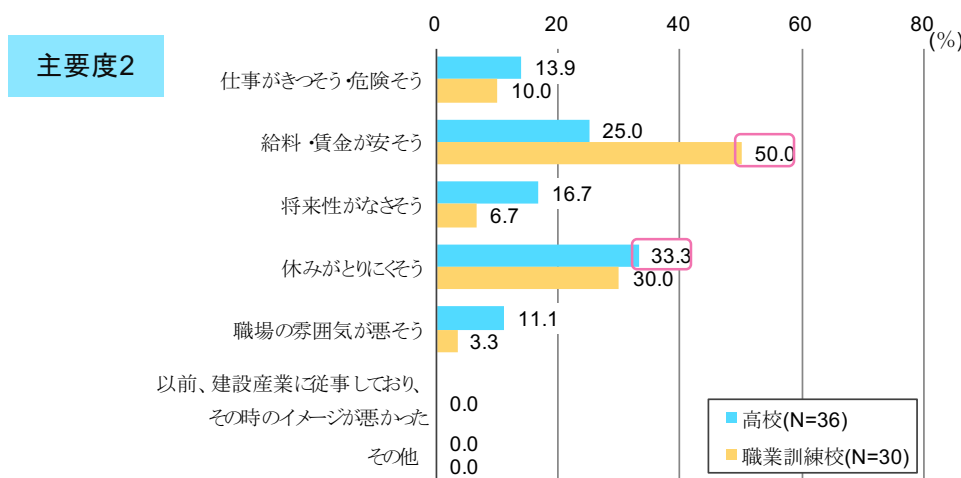
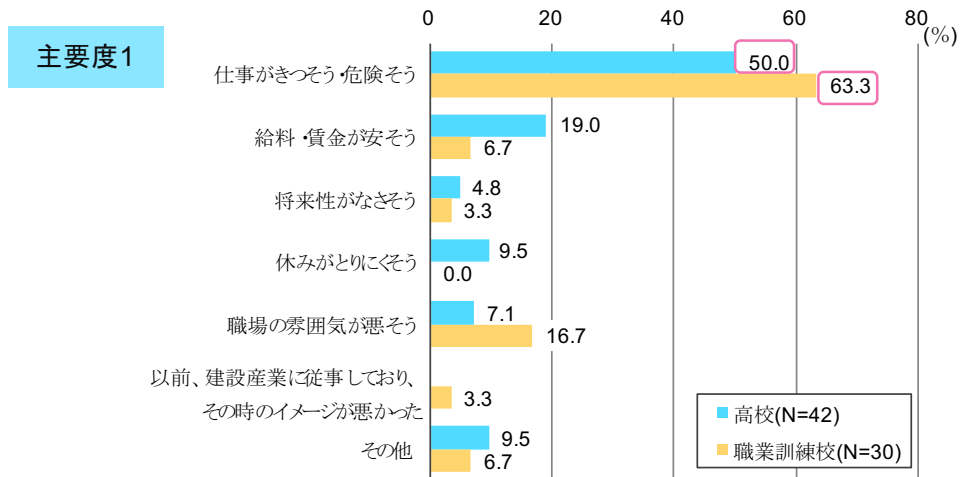
【その他回答〈職業訓練校〉】

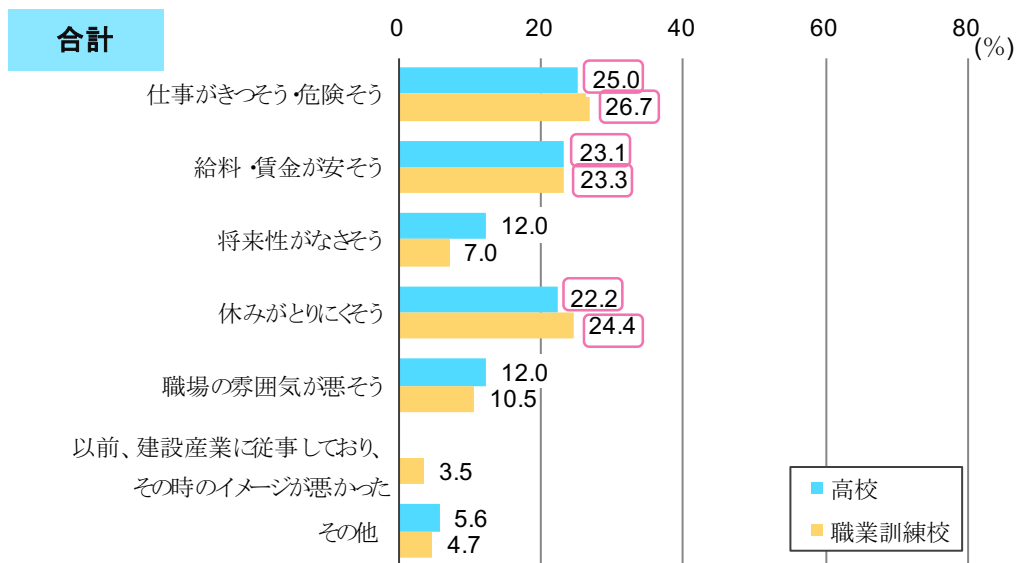
- ・前職で建設の現場や設備管理の仕事を見て、そのときのイメージがよかった
- ・雇用が多い

問2-2 問2で「3. どちらかという悪い」、「4. 悪い」を選択した方にお伺いします。そう考えた理由をお聞かせください。（選択肢の中から主要な理由を3つ以内で選択し、その数字を回答欄に記入してください）

○高校生、職業訓練校生ともに「仕事がきつそう・危険そう」(50.0%、63.3%)な点が悪いイメージの理由となっている。

○主要度2や3では、「給料・賃金が安そう」「休みがとりにくそう」という理由が挙げられている。





【その他回答〈高校〉】

- ・ブラック企業が多そう
- ・最近、建物が傾く事件があったから
- ・今、建設の手抜きなどが出ているから

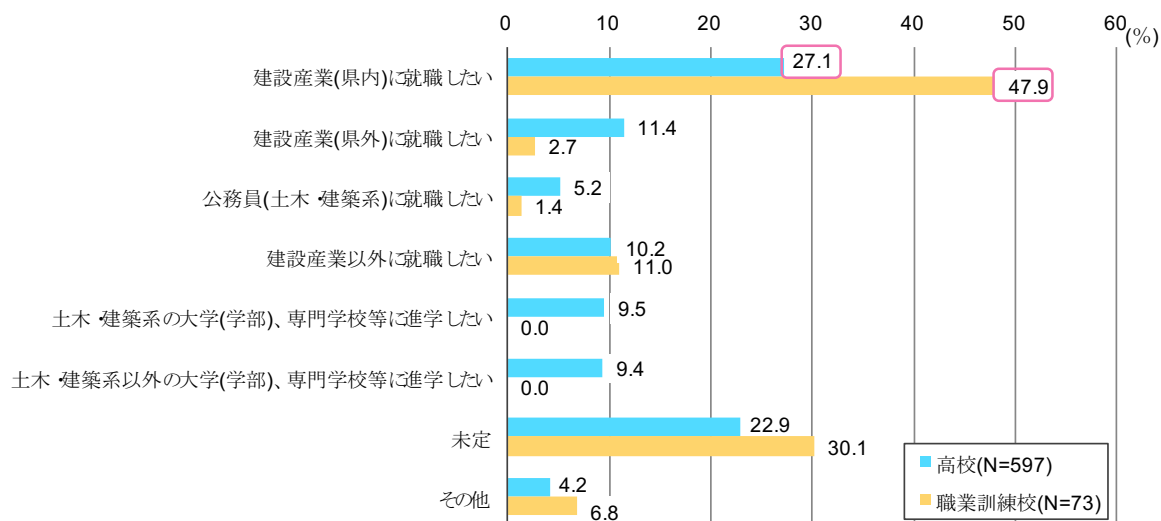
【その他回答〈職業訓練校〉】

- ・働く友人の愚痴を聞いた
- ・建設業に携わる人に、人間関係が悪いと聞いたから

3 進路希望等について

問3 卒業後の進路希望（今後の就職希望）についてお聞かせください。（該当する番号1つに○をつけてください）

○高校生、職業訓練校生ともに「建設産業（県内）に就職したい」（27.1%、47.9%）が最も多い。



【その他回答〈高校〉】

- ・大学(5) [大学(2)、4年生大学、私立大学、農業関係の大学]
- ・専門学校(5) [医療系(2)、専門学校(1)、デザイン系(1)、ブライダル(1)]
- ・公務員(2)
- ・調理師
- ・鉄道会社に就職内定をいただいた
- ・精神保健福祉
- ・看板関係
- ・製造
- ・まだ何の仕事がしたいかは決まってないが、とりあえず就職したい
- ・造園
- ・声優
- ・本来行きたかった工業系の仕事で車の工場に行きたいと思っています
- ・石材店

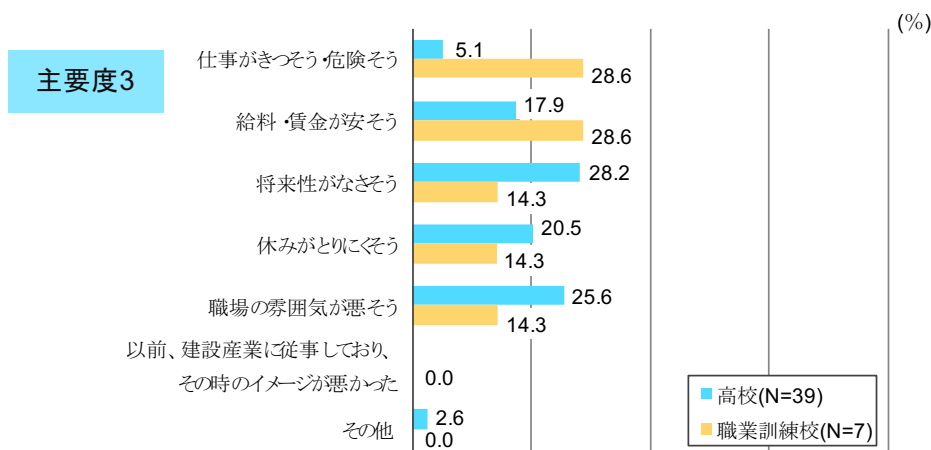
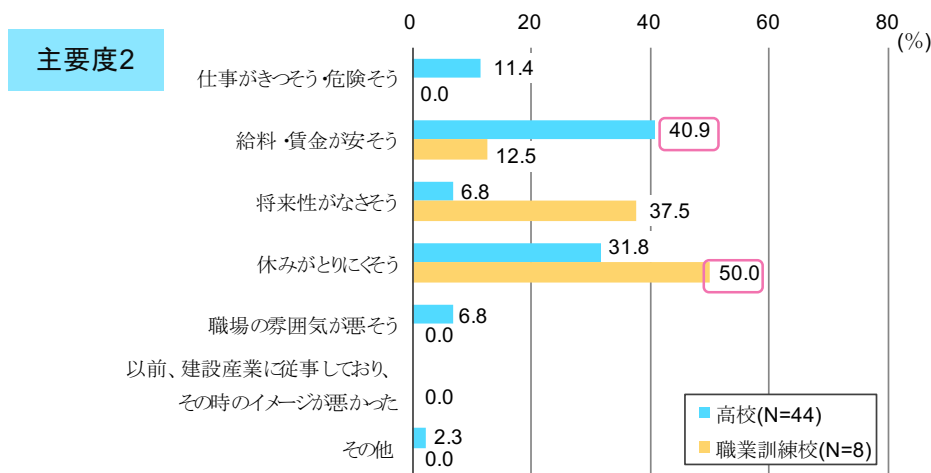
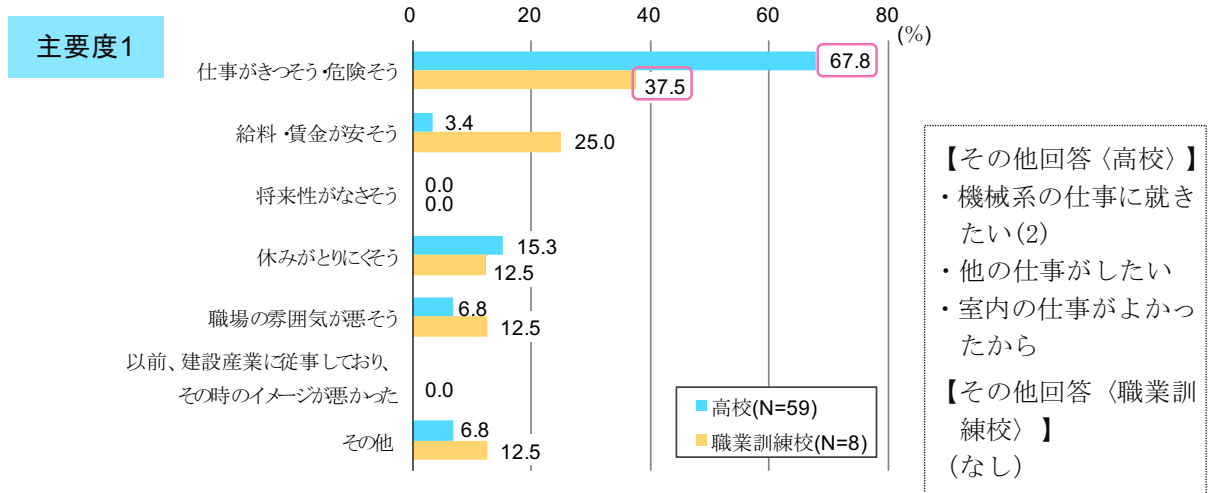
【その他回答〈職業訓練校〉】

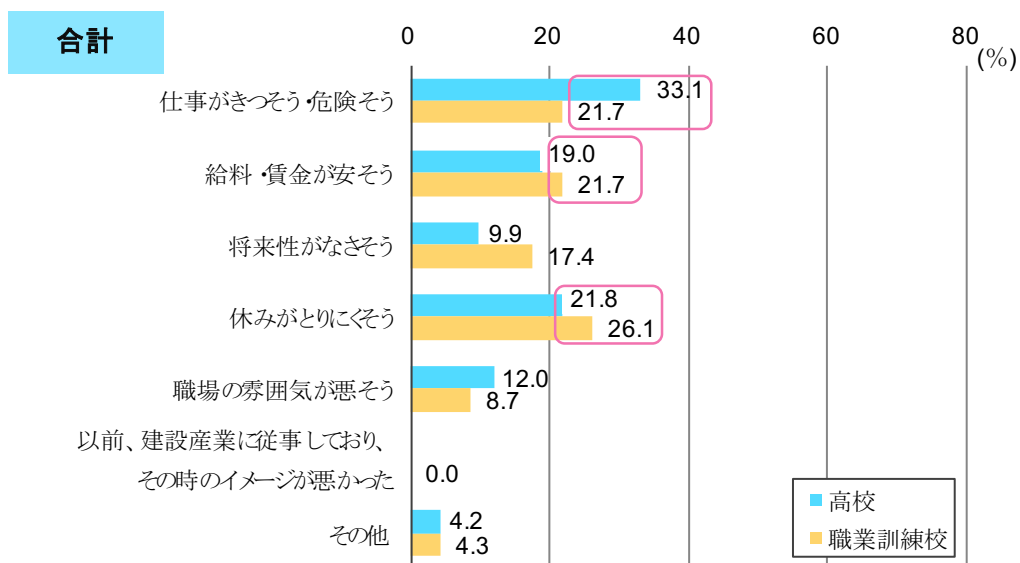
- ・事務
- ・営業の仕事
- ・電気設備士
- ・設備管理系

問3-1 問3で「4. 建設産業以外に就職したい」を選択した方にお伺いします。そう思った理由をお聞かせください。（選択肢の中から主要な理由を3つ以内で選択し、その数字を回答欄に記入してください）

○高校生、職業訓練校生ともに「仕事がきつそう・危険そう」(67.8%、37.5%)が最も多い。

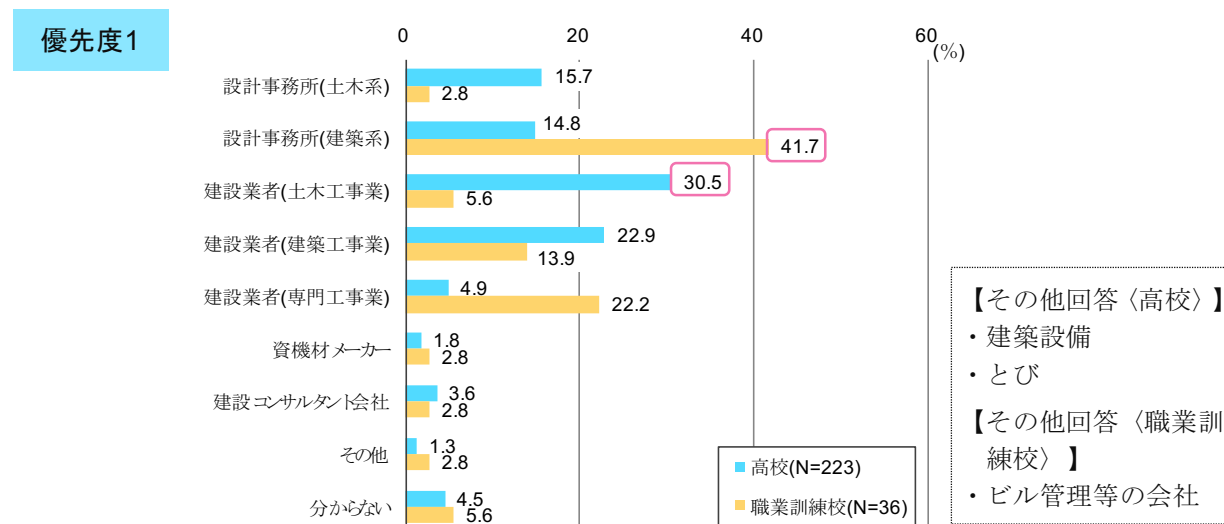
○主要度2では、高校生は「給料・賃金が安そう」(40.9%)が多く、職業訓練校生は「休みがとりにくそう」(50.0%)が多い。



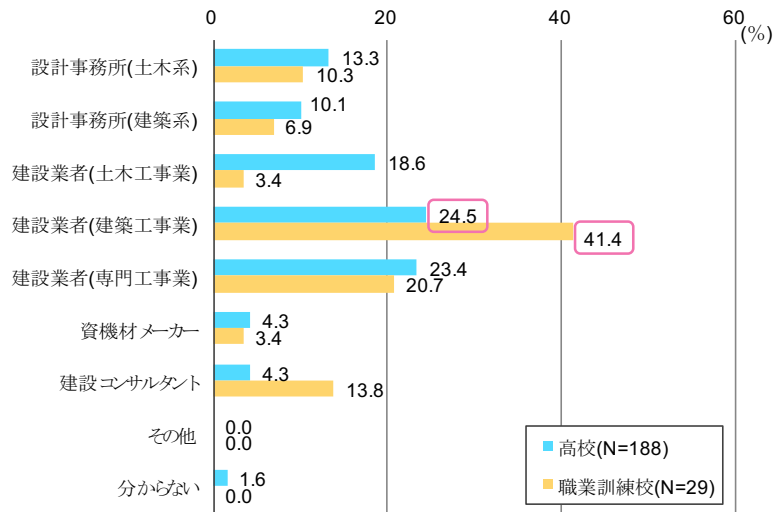


問3-2 問3で「1. 建設産業(県内)に就職したい」、「2. 建設産業(県外)に就職したい」を選択した方にお伺いします。希望する職種をお聞かせください。(選択肢の中から優先度の高い職種を3つ以内で選択し、その数字を回答欄に記入してください)

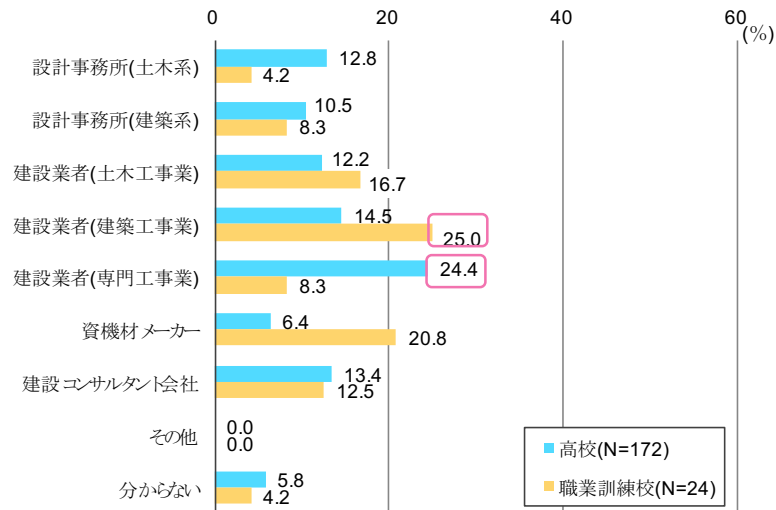
○高校生では「建設業者(土木工事業)」(30.5%)の希望者が最も多く、職業訓練校生では「設計事務所(建築系)」(41.7%)の希望者が最も多い。



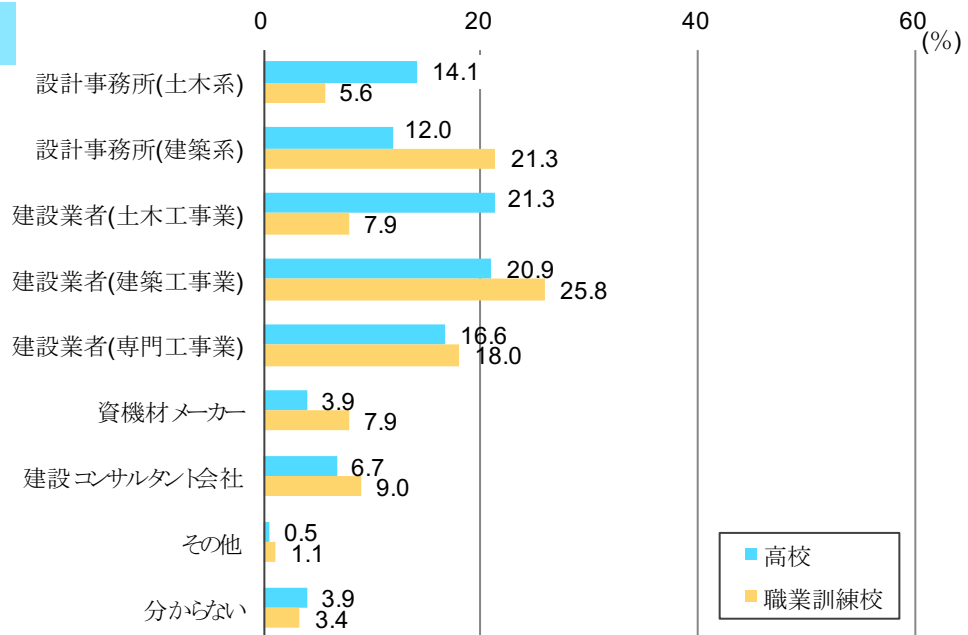
優先度2



優先度3

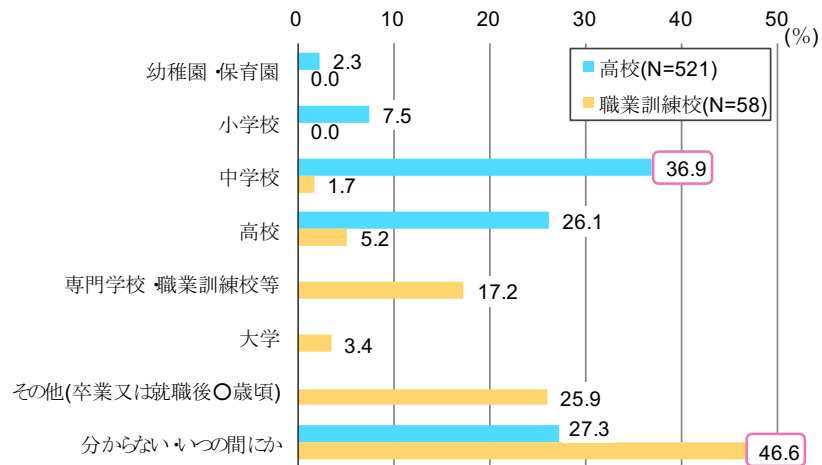


合計



問4 建設産業に就職したい(就職したくない)と思った時期をお聞かせください。(該当する番号1つに○をつけてください)

○高校生では「中学校」(36.9%)が最も多く、職業訓練校生では「分からない・いつの間にか」(46.6%)が最も多い。



【その他回答〈高校〉】

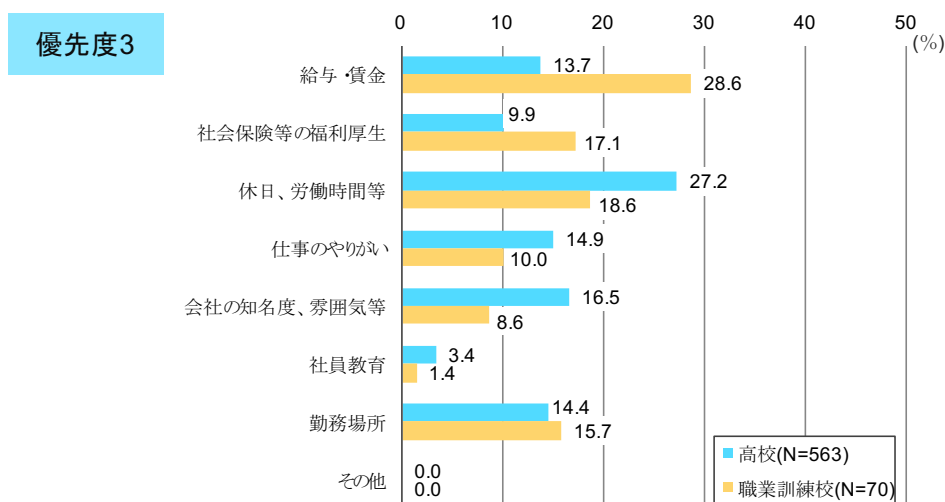
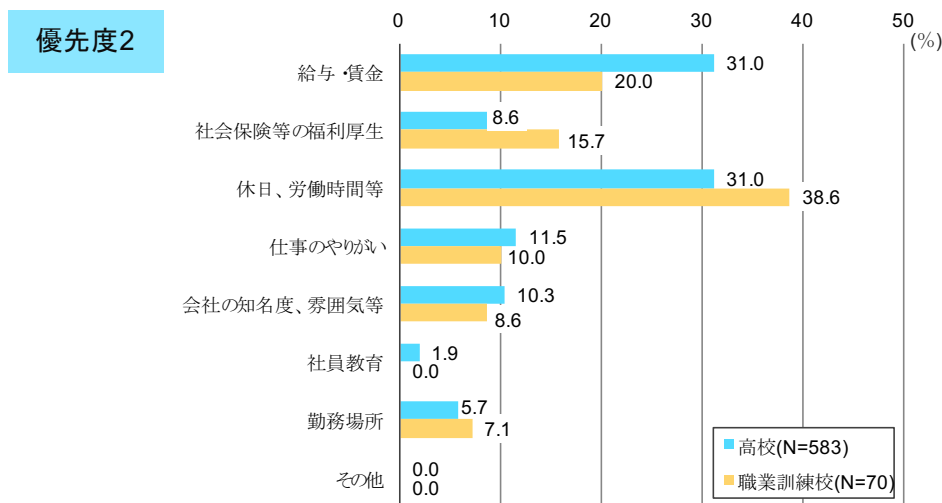
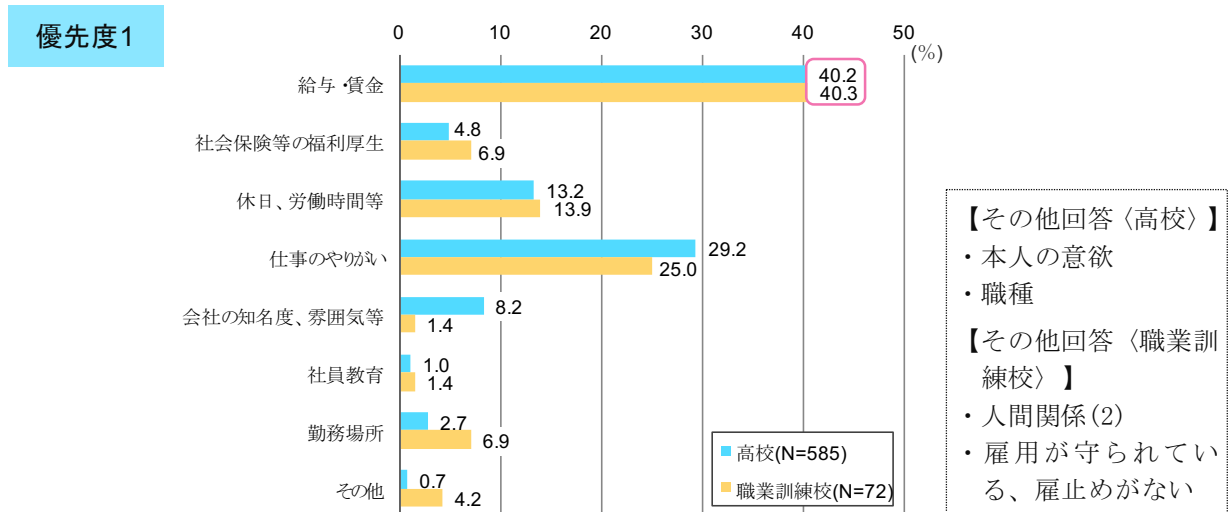
(なし)

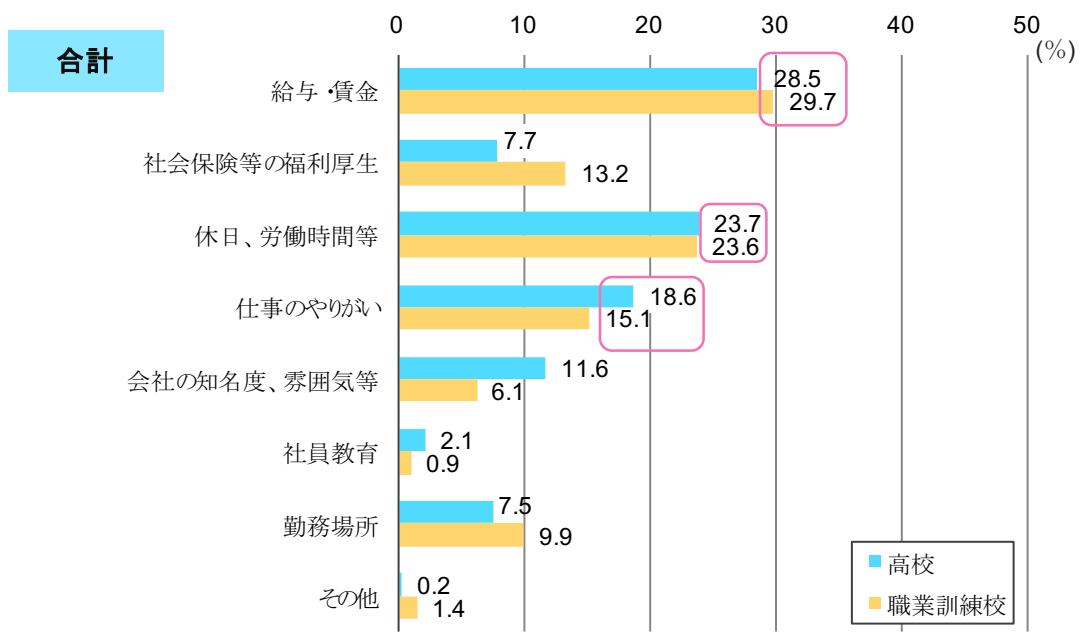
【その他回答〈職業訓練校〉】

- ・ 55歳頃
- ・ 50歳頃(2)
- ・ 40歳頃(2)
- ・ 28歳頃(3)
- ・ 27歳頃
- ・ 23歳頃
- ・ 20歳頃
- ・ 2歳頃

問5 就職先を決める場合に重要であると考えていることをお聞かせください。（選択肢の中から重要度の高い順に3つ以内で選択し、その数字を回答欄に記入してください）

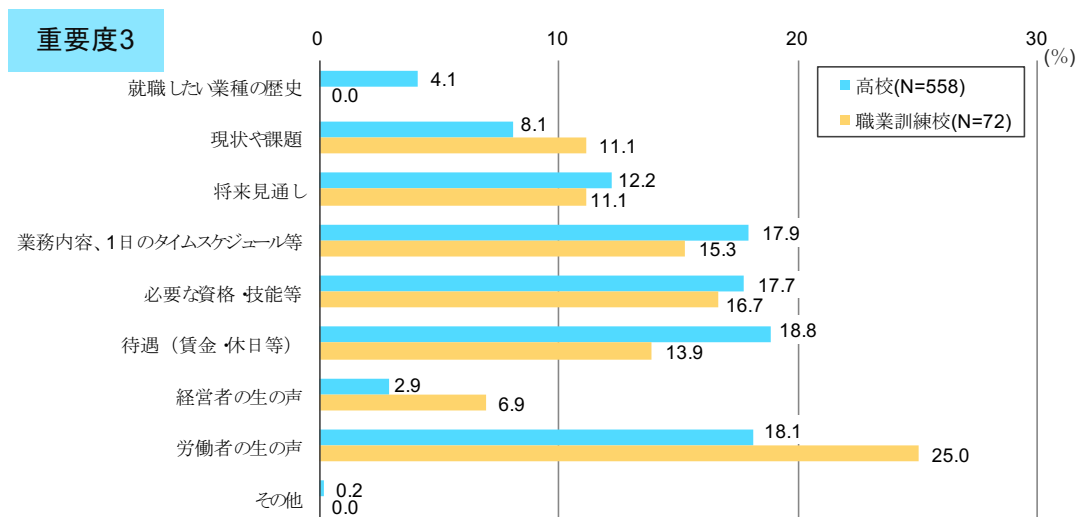
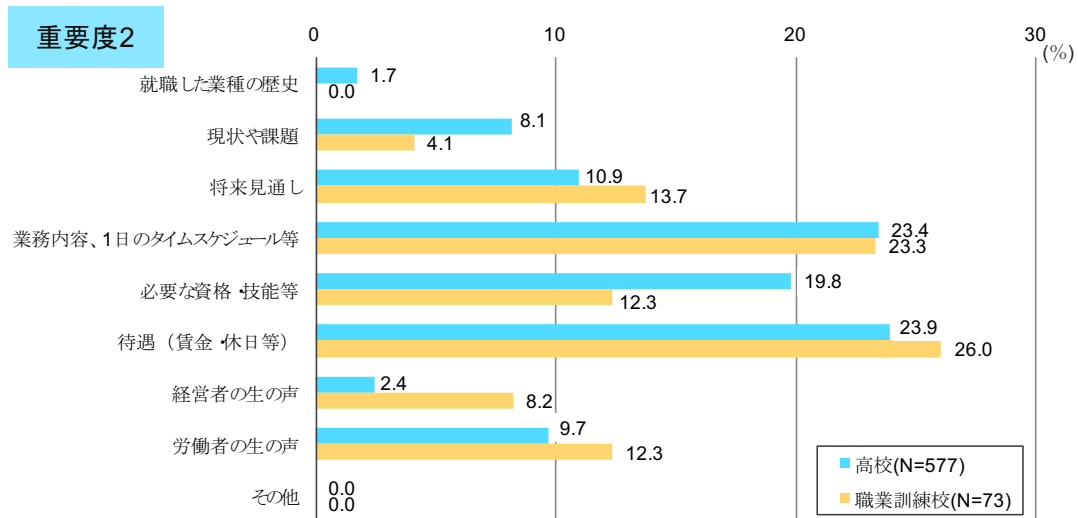
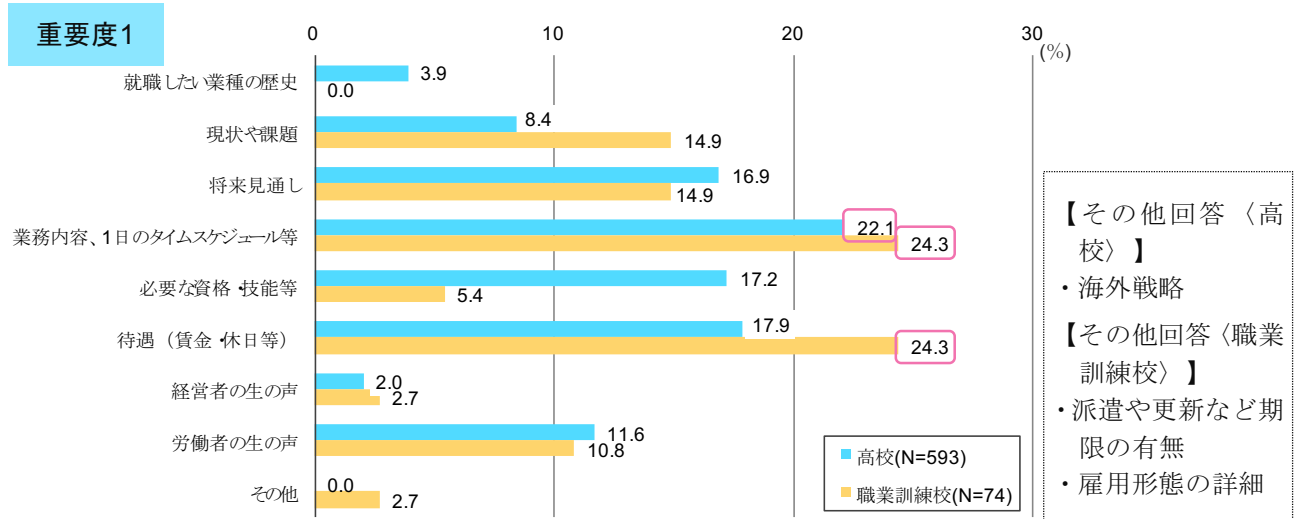
○高校生、職業訓練校生ともに「給与・賃金」(40.2%、40.3%)が最も多く、次いで、「仕事のやりがい」(29.2%、25.0%)が多い。

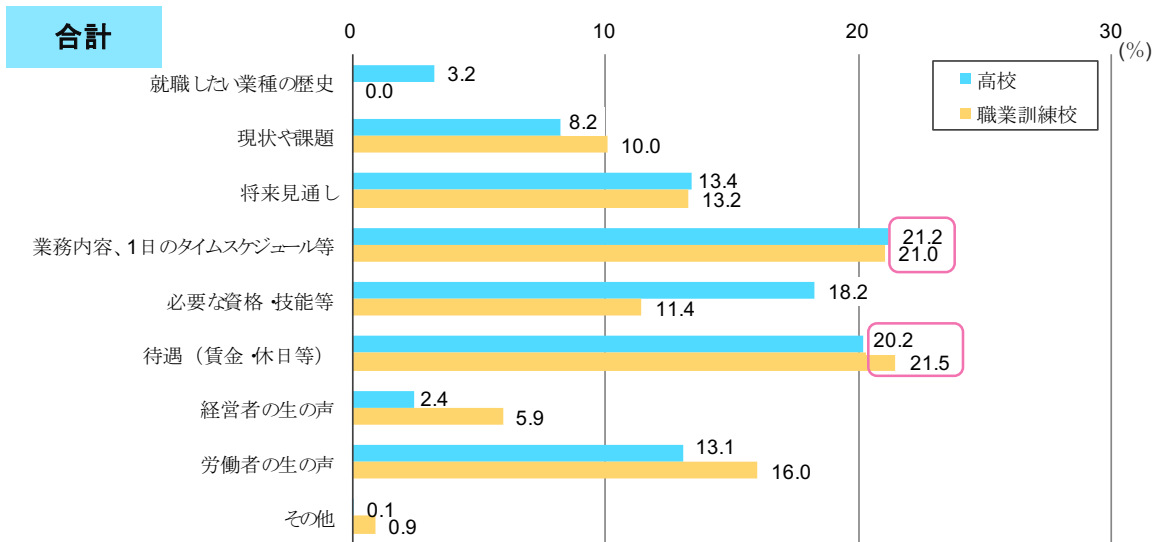




問6 就職を考える場合に知りたい情報についてお聞かせください。（選択肢の中から重要度の高い順に3つ以内で選択し、その数字を回答欄に記入してください）

○高校生、職業訓練校生ともに「業務内容、1日のタイムスケジュール等」(22.1%、24.3%)に対するニーズが高く、職業訓練校生では「待遇(賃金・休日等)」も多い。

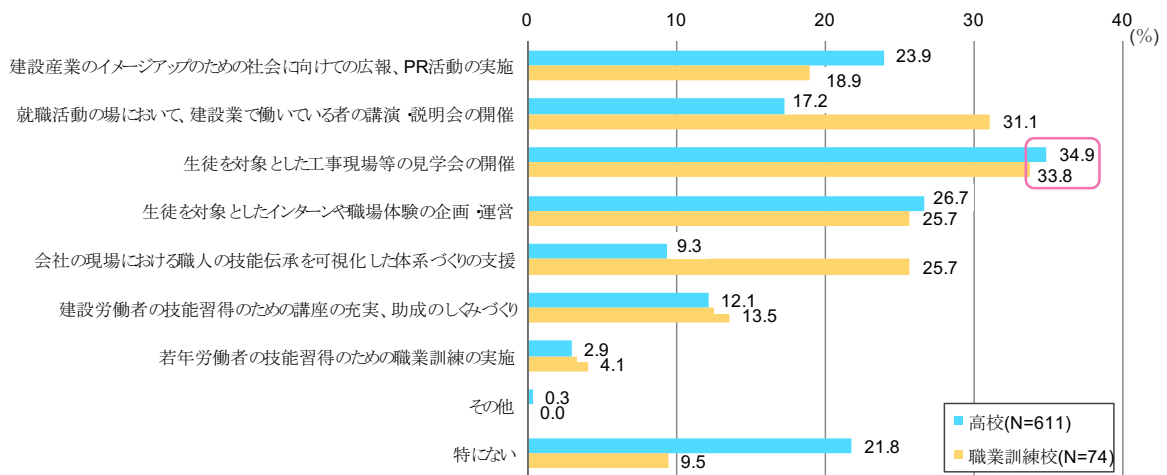




4 その他

問7 県内の建設関係団体、教育・職業訓練機関、行政機関等の関係機関が連携して、建設産業の担い手確保・育成のための事業を実施することとしていますが、この活動に期待する役割をお聞かせください。（該当するものすべてに○をつけてください）

○高校生、職業訓練校生ともに「生徒を対象とした工事現場等の見学会の開催」(34.9%、33.8%)が最も多い。



【その他回答〈高校〉】

- ・建設関係だけではダメ。県全体の活性化、イメージアップ
- ・分からない

【その他回答〈職業訓練校〉】

(なし)

問8 その他、ご意見等があれば自由にご記入ください。 [FA]

【その他回答〈高校〉】

- ・測量士になるには資格が必要ですか
- ・人が足りないと言っても、建築・土木関係の仕事に就こうと思う人はいないと思う。そもそも工事現場は危険なため、高い仕切りを立てているから、工事していても作業している姿が見えない。夢を持ち始める子どもの時期に、土木・建設業のことを知っている子は少ないと思う。テレビで見ることができるサッカーや野球、道路を走って悪を追いかける警察や、火を消して人を助ける消防士など、子どもから大人まで身近に感じる職業にすることが大事だと思う。
自分たちが歩いている道や道路、住んでいる家や建物などは、土木・建設業がなければ存在しない。だから、すごくロマンがあって、本当にやりがいのある仕事だと思う。一刻も早く、子どもたちの誰もが憧れるカッコいい身近な仕事になって、魅力を知ってほしいと思います。
- ・建設会社などのイメージアップをしてほしい
- ・まだ昔の悪いイメージがあるかもしれないので、今はどんな状態かをアピールしてほしい
- ・資格取得の講座があればいいです
- ・専門学校に行く

【その他回答〈職業訓練校〉】

- ・建設業務自体、広すぎてどこに的をしぼってよいかわからない
- ・そもそもこのような活動があることを対象者に周知すべきと感じる
- ・下請の下請へと、仕事をしない会社が大きな仕事をとることをやめてほしい
- ・建設の営業系、リフォーム等のコースの募集人員を増やしてほしい。今回希望したが、希望者が多く入れなかった
- ・ブラック企業の求人停止の定義を決め、求人募集を中止してほしい
- ・ポスターを作る、パンフレットを作る、HP、1回限りの講演会など、実績づくりのために予算を使うことはやめていただきたい

以上